

中高

2025 JICA課題別研修で 9か国12名の研修員受け入れを実施



昨年に引き続き、独立行政法人国際協力機構（JICA）とともに、2025年度 課題別研修「全人的教育：日本の実践的なアプローチ」が実施されました。本研修は、開発途上国から研修員として参加する教育省・地方教育機関の職員に対し、日本式教育モデルを実践型研修で学ぶ機会を提供し、自国で全人的な枠組みから教育できるようなアクションプランの策定を支援することを目的としています。

9月29日・30日、および10月2日の計3日間、本校で9か国（バングラデシュ、エジプト、ガーナ、マダガスカル、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、南スーダン）からのJICA研修員12名の受け入れプログラムが実施されました。給食や清掃、学活、部活動などの見学を通して、「特活（特別活動）」を中心とする日本式教育に触れるとともに、華道体験による礼法実習、日本の探究活動や食育に関する講義など、さまざまな実践研修が行われました。

本校での研修を終えた後は、国内の幼稚園、小・中学校、教育委員会などを訪問・視察し、10月10日、文京学院大学本郷キャンパスにて、本研修の修了式が執り行われました。修了式当日は、研修員による最終発表と修了証書の授与が行われ、約2週間にわたる日本での課題別研修が幕を閉じました。

今回の研修員受け入れを通して、本校の教職員や生徒にとっても、日本（自校）の教育の良さをあらためて知る貴重な機会となりました。



修了式の様子



生徒と交流する研修員

駒込キャンパスで生徒たちと

大学

「エスカレーター安全利用 キャンペーン」に今年も参加

毎年、埼玉県が推進する「エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」（2021年10月1日施行）の認知拡大と、安全な利用の啓発を目的とした街頭キャンペーンに学生が協力しています。

9月26日には大宮駅コンコースにて、大野元裕埼玉県知事や企業関係者、地元の学生・生徒とともに、本学学生が駅利用者として「左右両側に立ち止まって利用しましょう」と呼びかけ、安全なエスカレーター利用の大切さを広く伝えました。

さらに、10月16日には、ふじみ野駅改札前コンコースにて県議会議員、東武鉄道、日本生命などの関係者とともに、本学学生がキャンペーンを行い、当日は、出席議員らによる呼びかけや、啓発用ポケットティッシュの配布を通じて、条例の趣旨を広く周知しました。

今後も地域と連携した安全啓発活動を通じて、学生の主体的な社会参加を促進してまいります。



ふじみ野駅で活動する学生と県議会議員

当日の様子は
こちらの動画で▶



特集

注目のトピックス

Topic
01

文京幼稚園卒園生の
鼓奏者
藤倉呂近氏らによる
「和楽器演奏会」
@駒込キャンパス

中高



Topic
03

9月12日、10月7日

大学

地元経済の活性化を支える
人材育成プログラム
第1回「可視化経営」
第2回「地元企業人材確保」
ファシリテーターは
中山智晴副学長
@ふじみ野キャンパス



令和7年(2025年)

10月31日

第811号

発行
学校法人文京学院
https://www.bgu.ac.jp



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学 外国語学部 経営学部
人間学部 保健医療技術学部
ヒューマン・データサイエンス学部 (2026年4月開設)
/大学院
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎03-3814-1661
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部 保健医療技術学部
/大学院/文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校
文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

学院

2025年10月24日 『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』 が全国公開開始! 公開直前イベントも盛況

本学院創立者・島田依史子先生の著書『信用はデパートで売っていない 教え子とともに歩んだ女性の物語』(講談社エディトリアル)を原案とした映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』(配給:ギャガ)が、10月24日より新宿ピカデリーほか全国で公開されました。

10月18日、文京学院大学本郷キャンパス・仁爱ホールにて、映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』(10月24日公開)の公開直前スペシャルトークイベントが開催されました。登壇したのは、市毛良枝氏、酒井美紀氏、八木莉可子氏、脚本家・まなべゆきこ氏、中西健二監督の5名。イベントでは約15分間の特別映像が上映され、会場には約400名の観客が詰めかけました。

本作は、学校法人文京学院創立100周年を記念して、本学が全面協力し、大学のシーンは本郷キャンパス、ふじみ野キャンパスで撮影されました。

三世代を描く物語にちなみ、登壇者たちはそれぞれの役柄や撮影秘話を披露。市毛氏は「学びをテーマにした前向きな作品に惹かれました」、酒井氏は「新しい母親像を演じられてうれしかった」と語り、八木氏も「温かい脚本に心を打たれました」と笑顔を見せました。中西監督は「三世代の家族の絆を丁寧に描きたかった」と振り返り、脚本を手掛けたまなべ氏も「原案の想いを生かしたオリジナル作品に挑戦しました」と語りました。

残念ながらライブのため欠席となった豆原一成氏



トークイベント会場にて

大学

「第39回全国書写書道展覧会」 にて外国語学部2年生が 「特別最高賞」受賞

9月21日、文京シビックセンターで開催された「第39回全国書写書道展覧会」の表彰式において、外国語学部2年の富澤杏樹さんが「特別最高賞」を受賞しました。

本展覧会は、全国書教研連盟が主催し、東京都や文京区のエデュケーション委員会、中国大使館、読売新聞社などの後援を受けて開催されている全国規模の書写書道展覧会です。富澤さんは昨年の同展覧会において「文部科学大臣賞」を受賞しており、今年もそれと同等の上位特別A賞に位置づけられる『特別最高賞』に選ばれ、2年連続受賞という快挙を成し遂げました。

学生コメント

富澤杏樹 (外国語学部2年)

「昨年に続き、今年もこのような素晴らしい賞をいただけたことに心から感謝しています。日々の練習の積み重ねが評価されたことを嬉しく思います。今後も精進を重ね、書の道を深めていきたいです」



富澤さんの作品

大学院

保健医療科学研究科生が 「JACLaS Award II」を受賞

大学院 保健医療科学研究科 検査情報解析分野に所属する吉野泰樹さん(指導教員: 古谷信彦教授、眞野谷子学科長・准教授)は、10月3日〜5日にパシフィコ横浜で開催された「日本医療検査科学会第57回大会」にて、優れた研究発表に対して贈られる「JACLaS Award II」優秀演題賞(大学院生部門)を受賞しました。

発表演題は「グルコン酸クロルヘキシジン(CHG)耐性獲得に対するエビガロカテキンゲレート(EGCG)の阻止効果の検討」。高齢者の肺炎予防に用いられるCHGに対する耐性菌の増加に対し、緑茶成分EGCGの併用による耐性抑制効果を検証したもので、実験結果からEGCGの有効性が示されました。

今後の感染症対策への貢献が期待される研究として高く評価されました。



吉野さん

中高

書道部 「第34回国際高校生選抜書展」 などで上位入賞!

“書の甲子園”の愛称で知られる「第34回国際高校生選抜書展」(主催:毎日新聞社、一般財団法人毎日書道会)で、書道部から2名が『優秀賞』を受賞しました。また、2人の受賞もあり、本校が団体でも「地区優秀賞」を受賞することができました。海外の8カ国・地域を含め、1万634点の応募があり、入賞・入選1,828点の中でも上位の作品に贈られる賞で、本校では初の受賞です。2名共「第41回読売書法展」に引き続きの受賞となりました。

橋本心花さん(3梅)は紺紙に金泥を使用し、力強い楷書800字以上を書き上げた力作での受賞。半年以上の制作期間の中でどうしたら入賞できるか、特に紙・墨の色、字線の引き方にもこだわり、試行錯誤しながら練習を重ねました。1文字も間違えられない緊張感の中での制作は自分自身の成長にも繋がりました。

松下怜奈さん(3梅)は「驚くほど光はやわらかく影は鮮やかに」という、作品に合わせて考えた自身の言葉を題材に、感動のある作品を目指し制作しました。1日中この作品のことで頭がいっぱいになるほど書道に夢中になりました。

また、11月に東京都美術館にて開催された「第1回全国学生みらいの書展」(主催:奎星会)において、本校から出展した9名全員が「入賞」を果たし、松下怜奈さん(3梅)の作品が全国でわずか8名に贈られる『大賞』、中西朱音さん(2梅)の作品が『準大賞』に選ばれました。

松下さんは、書の甲子園と並行して取り組んだ作品での受賞で、これまでさまざまな展覧会に向けて取り組んできた努力が実を結びました。

中西さんは「吐露」の2文字で『準大賞』を受賞。松下さんにも教わりながら、思いを吐き出すように表現しました。表彰式は、11月2日に上野精養軒にて開催されました。

書道部では、日頃より書写・書道教育を通じて表現力や集中力を育むことを大切にしており、今回の受賞はその成果の一つといえます。今後も、生徒一人ひとりの個性と努力が輝く場を大切にしていまいます。



▲表彰をうけた
松下さん(左)と
中西さん(右)

◀書道部
メンバー

大学

文京祭・あやめ祭開催

10月18日・19日の2日間、文京祭（本郷キャンパス）・あやめ祭（ふじみ野キャンパス）が開催されました。

本郷キャンパスでは、「Our own story 映画と文京祭の融合」をテーマに開催され、総計1,766名の来場者が訪れました。ゼミ展示・発表、模擬店、ライブパフォーマンスや、今年のテーマにちなんだクイズ・ゲーム企画「ザ・シネマのかべ」「ピンゴと、しあわせの数式」、子どもたちも楽しめる「わくわくランド」、文化教養講座コンサート、警察署・消防署の展示や防災体験等の企画が行われました。また、震災復興に尽力する釜石の宝来館元女将・岩崎昭子氏と東日本大震災復興支援プロジェクト「ブレイメンズ」の学生が連携してチャリティチョコレート販売しました。

ふじみ野キャンパスでは、「継往開来～過去から今、そして未来へ～」をテーマに開催され、総計2,111名の来場者が訪れました。学科・ゼミによる展示、サークル等による公演や模擬店のほか、子どもたちも楽しめる戦隊ショー、ライブパフォーマンス、警察・自衛隊車両展示、公開講座が開催されました。

企画から実施まで担当した実行委員会の学生からは、以下のコメントが寄せられています。

文京祭

●文京祭実行委員長 高橋花里菜（経営学部3年）

大学祭のテーマは「Our own story」でした。「映画」というコンセプトとともに、文京祭に関わるすべての人と一緒に盛り上げたいという想いを込めていました。皆さんの思い出に残る大学祭になっていたら嬉しいです。

●イベント局キャンパス部長 宮下莉穂（経営学部3年）

今年の文京祭は「Our own story（私たちの物語）」をテーマに開催しました。外部団体や学内展示に加え、わくわくランドや「tomoちゃんを探せ」など新しい企画も実施し、幅広い年代の方に楽しんでもいただける大学祭になったと思います。これまでの文京祭とは異なる、新しい形の大学祭をつくれたと感じています。

●ステージ局長 早川 詠（経営学部3年）

今年の文京祭では、「映画」をテーマに来場者が一緒に楽しめる企画を考え、例年とは異なる新しい取り組みを多数実施しました。映画に関するクイズ大会やイカゲームをオマージュした企画、本学で撮影された映画にちなんだピンゴ大会、スペシャルお笑いライブなどを行い、多くの来場者に楽しんでいただけた文京祭になりました。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー



あやめ祭

●あやめ祭実行委員長 宮倉ゆま（人間学部心理学3年）

この度は第44回あやめ祭にご来場いただき、誠にありがとうございました！私からこの場をお借りして、今年度のあやめ祭実行委員会にお礼を言いたいと思います。人数も少なく、局が決まってから期間も短かった中、みんな本当に頑張ってくれました。素晴らしい委員たちに恵まれて私は幸せでした！ありがとうございました！

●総務局長 福田りさ（人間学部心理学2年）

人に指示を出したりまとめるのが私自身初めてのことで、右も左も分からない中、職員の皆さんや先輩方、委員会の方々に助けられる場面が多く、感謝の気持ちでいっぱいです。当日はたくさんの方にご来場いただけて嬉しかったです。ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

●財務局長 金子伴大（保健医療技術学部臨床検査学科1年）

第44回あやめ祭にお越しいただきありがとうございました。多くのお客様にお越しいただいたことを非常に嬉しく思っております。実行委員として、委員長と総務局長、先輩方の指導の下、多くのことを学ぶことができました。また何十人もの実行委員・関係者様と関わることができ、最高の経験を得ることができました。すべての方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー



幼稚園

運動会開催

ふじみ野幼稚園

今年の運動会は、猛暑の頃から少し涼しくなった10月4日に開催しました。

当日は、保護者の皆様に多数ご参加いただいたほか、島田昌和学院長・理事長、前園長の小栗俊之教授（人間学部長）、林淳香教授（同学部児童発達学科長）にもご来園いただき、明るく楽しい雰囲気の中で行うことができました。

年少・年中・年長それぞれが、ダンスやかけこ（年長はリレー）にクラスの仲間や先生方と一緒に取り組み、子どもたち一人ひとりのがんばる姿に、温かい拍手と応援をいただきました。親子種目では、子どもたちだけではなく保護者の皆様にも熱心にご参加いただき、楽しい気持ちを共有することができました。また、「小学生の時間」には、卒園した小学1年生のみなさんが元気な笑顔を見せてくれました。

本園の園庭が、園児だけではなく、保護者の皆様や卒園した子どもたちなど、集まっていたいたすすべての皆様にとって大切な場所であることを改めて感じる運動会となりました。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー



秋空の中、ふじみ野幼稚園、文京幼稚園の園庭で、元気いっぱいの運動会が開催されました。

文京幼稚園

10月12日、台風接近に伴い1日延期しての開催となりました。今年も2部制で、年少組、続いて年中・年長組が合同で開催しました。

●年少組

初めての運動会は、ドキドキしながらも堂々と入場。かけっこ、リズム表現も笑顔がいっぱい！園生活に慣れてきて楽しく取り組む様子を見ていただきました。

●年中・年長組

2学年の開会式では始めの言葉や歌、そして準備体操も掛け声を掛けながら行い、元氣と笑顔があふれていました。2学年共体操で習った種目を披露しました。学年ごとのリズム表現・競技では、年中組がおばけをテーマに発表、年長組はパラバルーンとリレーに取り組み、全員で心一つに集中して頑張る姿は素晴らしいものでした。園児全員が体だけでなく、心も大きく成長していました。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー



大学

国際連携教育プログラムで留学生と文京学院生が2つの地域で日本文化を体感！

国際連携教育プログラムの一環として、地域文化を体感する2つのプログラムが実施されました。

9月21日には、文京区・根津神社の例大祭において、留学生19名と本学学生10名が地元・宮本町会のご協力のもと、神輿担ぎに挑戦。法被姿で「オイッサ！」の掛け声とともに、地域の方と一緒に神輿を担ぎ、街を練り歩きました。初めての体験に戸惑いながらも、学生たちは次第に息を合わせ、笑顔と達成感に満ちた表情を見せていました。

さらに、10月5日・6日の2日間にわたり、本学と協定を結ぶ神奈川県藤沢市との連携による今年で4回目となる産官学国際連携教育プログラム「GLOBAL BLUEHANDS PROJECT 2025」を実施。40名が参加しました。初日は白旗神社での参拝作法の学びに始まり、日本舞踊の体験、そして藍染や書道の体験を通じて、日本の伝統文化に触れました。学生たちは、藍の深い色合いや筆の運びに集中しながら、作品づくりに没頭しました。

2日目は、藤沢市役所に集合し、限取メイク体験、盆踊り体験、江の島散策、キャンドルワークショップなど、五感を使って地域の魅力を体感するプログラムが展開されました。特に盆踊りでは、太鼓の音色に合わせて賑やかな雰囲気を楽しみました。

これらの活動を通じて、留学生たちは日本文化への理解を深めるとともに、地域の方々と交流を通じて、日本での生活に対する親しみを感じるようになりました。異なる文化背景を持つ仲間とともに体験を共有することで、互いの価値観を尊重し合う姿勢も育まれました。今後も、地域社会との連携を通じて、留学生が実践的に異文化理解を深める機会を提供していきます。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー

根津神社例大祭での神輿担ぎ



GLOBAL BLUEHANDS PROJECT 2025

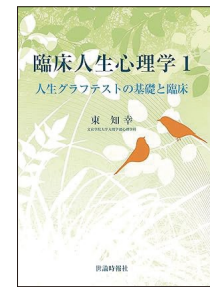


書籍紹介

『臨床人生心理学 1 人生グラフテストの基礎と臨床』（世論時報社）

人間学部 心理学科 東知幸准教授の著書『臨床人生心理学 1 人生グラフテストの基礎と臨床』が刊行されました。（以下、世論時報社のホームページより）

「臨床人生心理学」の誕生!! 臨床人生心理学とは臨床心理士として長年人生について研究してきた著者が提唱する新しい心理学。第1巻は精神科初診やカウンセリング初回で利用すると人間理解に大いに役立つ新開発の心理テスト、人生グラフテストについて解説。



著者：東 知幸
世論時報社（2025年5月）／2,500円（税別）
ISBN：978-4910907048

大学

卒業生の活躍紹介 活躍を続けるアーティスト！

本学の卒業生でもあり、現在、経営学部で学生の指導を担当している小西孝典非常勤講師（アーティスト名：CO2）が手がけるキャラクター《SHARK》が、書籍『CREATORS ART SOFVI COLLECTION』に掲載されました。

この書籍は、「キャラクター」に焦点を当てたアートソフビのコレクションブックで、現在活躍中の多数の作家の中から選ばれた約120体のキャラクターが紹介されています。（発行は株式会社大仲社ディライト）

小西講師の《SHARK》は、丸みを帯びた可愛いフォルムと、サメでありながら2足歩行というユニークな設定が特徴で、独自の世界観を持つキャラクターとして注目を集めています。

また、9月25日～10月7日、京王百貨店新宿店で開催された「TOEI ART FES. 秘密戦隊ゴレンジャー ART HURRICANE 50」にも出展。

そして、10月22日～27日、上野松坂屋で開催された「永井豪EXPO」では、漫画家永井豪の名作、「デビルマン」や「マジンガーZ」、「ゲッターロボ」とのコラボレーションも果たしました。

11月末には《SHARK》のカペルトイの販売も控えており、卒業生として、そしてアーティストとしても活躍を続ける小西講師の今後の展開にも注目です。

書籍について詳細はこちら



小西講師の作品 (sharkブルーと毒ガス仮面)



「永井豪エキスポ」での出展作品

大学

映画の舞台裏から学ぶ経営学のリアル 経営学部トークイベント第2弾 「映画×経営学」開催

経営学部が主催となり、10月18日、文京祭（本郷キャンパス）と同日開催でトークイベント『ビジネス×コンテンツ＝未来をプロデュースせよ』Vol.2「映画×経営学：スクリーンの裏側に潜むヒットの数式」が開催されました。

本イベントは、今年7月に開催された同シリーズ企画「アニメ×経営学」に続く第2弾。映画やアニメ、音楽などのコンテンツ業界をテーマに、制作現場のリアルと経営学の視点を交差させる試みとして注目を集めています。

今回は、脚本家のまなべゆきこ氏、映画プロデューサーの武井哲氏（有限会社PADMA代表取締役）、そして経営学部の藤田邦彦学部長とコンテンツビジネスのスーパーバイザーとして映画監督・プロデューサーを務める公野勉教授が登場。映画制作における物語の力や映像表現、資金計画や事業戦略など、ヒット作品の裏側にある「数式」を経営学の視点から紐解きました。

司会は、ニッポン放送アナウンサー吉田尚記氏が務め、脚本家やプロデューサーになるための道のり、テレビと映画の制作の違い、メディア環境の変化に伴う今後の展望など、学生や一般参加者にとって刺激の内容が展開されました。

まなべ氏はキャラクター名の決定に数日悩むこともあると語り、創作の難しさを紹介。武井氏は「貞子3D」などジャンルを問わず幅広い作品を手がけてきた経験を紹介し、プロデューサーの役割は企画立案から観客に届けるまで全工程に関ることだと語りました。

公野教授は、キャラクタービジネスの経験が後の制作に活きたと振り返りました。映画制作の現場がフィルムからデジタルへ移行した変化や、予算・俳優・企業事情によって企画が実現しない現実も語られました。

会場には中高生や大学生、一般の方などが来場。映画という身近なコンテンツを通じて、クリエイティブとプロデュースを学べる貴重な機会となりました。



左から吉田アナ、藤田学部長、公野教授、まなべ氏、武井氏



イベントの様子

